

○福山市立大学教育学部研究紀要執筆要領

- 1 論文内容は未刊行のものに限る。
- 2 論文の作成にあたっては、公立大学法人福山市立大学研究倫理規程(令和3年法人規程第63号)に準拠し、「教育学部研究紀要投稿論文 倫理チェックリスト」に回答する。
- 3 論文は日本語または英語により作成するものとする。
- 4 論文1編の長さは、図表、脚注、要旨等のすべてを含めて、原則として本誌刷り上がり(本文24字×42行 2段組み)12ページ以内とする。
- 5 論文原稿はワードプロセッサ(例:Microsoft Word、一太郎など)を用いて作成し、用紙サイズA4判に片面印刷する。本文は、用紙縦向き、上下余白25mm、左右余白60mm、24字×32行、フォントサイズ10.5のページ設定で作成し(縦書きの場合は用紙横向きで上下余白60mm、左右余白25mmの設定)、本文開始ページ(原稿3ページ目)からフッターにページ番号を付ける。
- 6 原稿1ページ目に、表題、執筆者名、所属機関・部署名、要旨、キーワードを日本語で記載する。連絡先メールアドレスの掲載を希望する場合は、代表者のメールアドレスも記載する。

原稿2ページ目に、表題、執筆者名、所属機関・部署名、アブストラクト(要旨)、キーワードを英語で記載する。また執筆者名をローマ字等で記載する。

・表題

表題に副題をつける場合は、日本語ではダッシュ(一)で囲み、英語ではコロン(:)で接続する。英語表題について、英単語の頭文字は大文字で表記するが、文頭・文末以外の冠詞、等位接続詞、前置詞はすべて小文字とする。

・執筆者名および所属機関・部署名

執筆者名は、姓名の順に表記する。日本語表記の姓と名の間には1文字分の全角スペースを入れる。ローマ字表記の姓はすべて大文字で、名は先頭文字のみ大文字とする。

所属機関・部署名の英語表記における大文字・小文字の使い方は、英語表題に準ずる。

・要旨

要旨は、日本語400字程度、英語は150語程度で記述する。段落冒頭は、日本語では1字分、英語では2字分の字下げを行う。英文要旨はネイティブチェックを経ることが望ましい。

・キーワード

キーワードを3~5項目の範囲で記載する。英語キーワードは、固有名詞を除き小文字で表記する。

- 7 原稿3ページ目より、本文を記述する。句読法については、原則として、和文の句読点は「。」と「，」(横書き)あるいは「、」(縦書き)を用いる。英語の句読点は原則として「.」と「，」を用いる。和文は原則として現代かなづかいと常用漢字を使用する。英語による論文は専門家の校閲を経ることが

望ましい。

- 8 外国人名・地名に原語を用いる以外は、記述中の外国語になるべく訳語を付ける。
- 9 数字は、横書きの場合、原則として算用数字を使用する。
- 10 出典が明らかになるように、引用文献等を脚注に記載するか、または論文末に文献一覧を付ける。  
なお、ウェブ情報やオンライン情報の引用については著者名、年号、資料題名、サイト名、アップデート日、URL、アクセス日等を記述することが望ましい。
- 11 脚注は、出典の記載および内容の補足説明に限る。脚注には通し番号を付ける。
- 12 図表は、鮮明なもので、縦横が掲載時の2倍程度の大きさに作成する。図表の原稿書式は、本文のページ設定と異なるものでよい。原則として白黒印刷とする。データがカラーで作成されている場合、白黒印刷した状態を確認する。
- 13 図表のおおよその差し込み場所とサイズについて、原稿の余白に指示する。刷り上がりページのレイアウト見本を添付することが望ましい。
- 14 本学または関連学会等の研究倫理審査委員会の審査を受けた場合は、その旨を論文末に記述する。  
例：「本研究は20yy年mm月に福山市立大学研究倫理審査委員会の審査を受け承認された。」
- 15 原稿は、定められた受付期間内に、紀要編集委員会が指定する形式で所定の添付票を付けて提出する。
- 16 編集委員会にて査読を行うが、投稿論文の内容については執筆者が責任を負う。
- 17 執筆者による校正は2回までとする。校正時の大幅な内容改変は認められない。

附則

この要領は、令和3年4月1日より施行する。

附則

この要領は、令和6年5月20日から施行する。

附則

この要領は、令和7年6月6日から施行する。